

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追補版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	鶴ヶ島市高倉プロジェクト	階数	地上3F		
建設地	埼玉県鶴ヶ島市	構造	S造		
用途地域	用途地域の指定のない区域、防火地域	平均居住人員	50 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)		
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2024年12月25日		
敷地面積	12,380 m <sup>2</sup>	作成者	宮渕 智康		
建築面積	5,703 m <sup>2</sup>	確認日	2025年1月22日		
延床面積	15,372 m <sup>2</sup>	確認者	堀内 智文		
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)			2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)		
<div>BEE =1.5</div> <div>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★</div> 			<div>標準計算</div> <div>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆</div>  <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです</p>		
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)					
2-4 中項目の評価(バーチャート)					
<div>Q 環境品質</div> <div>Q1 室内環境</div> <div>Q1のスコア= 0.0</div>  <div>Q2 サービス性能</div> <div>Q2のスコア= 3.6</div>  <div>Q3 室外環境 (敷地内)</div> <div>Q3のスコア= 3.2</div> 					
<div>LR 環境負荷低減性</div> <div>LR1 エネルギー</div> <div>LR1のスコア= 3.4</div>  <div>LR2 資源・マテリアル</div> <div>LR2のスコア= 3.4</div>  <div>LR3 敷地外環境</div> <div>LR3のスコア=3.4</div> 					
3 設計上の配慮事項					
総合			その他		
ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。			特になし。		
Q1 室内環境		Q2 サービス性能		Q3 室外環境 (敷地内)	
評価対象外		階高:3.9m以上。[壁長さ比率=0.08] <0.1。床荷重：14700N/m <sup>2</sup> ケーブルラック、配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。		植栽により、良好な景観を形成している。	
LR1 エネルギー		LR2 資源・マテリアル		LR3 敷地外環境	
BEIm = 0.47		節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGSを使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を使用している。		燃焼機器を使用していない。 光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす。また、広告物照明は行っていない。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追補版  
鶴ヶ島市高倉プロジェクト

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追補版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v2.3.

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.4
Q1 室内環境					-		-	-
1	音環境			-	-	-	-	-
	1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-	-	
	1.2 遮音		-	-	-	-	-	
	1	開口部遮音性能	-	-	-	-	-	
	2	界壁遮音性能	-	-	-	-	-	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	-	-	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	-	-	
	1.3 吸音		-	-	-	-	-	
	2 温熱環境			-	-	-	-	-
	2.1 室温制御		-	-	-	-	-	
	1	室温	-	-	-	-	-	
	2	外皮性能	-	-	-	-	-	
	3	ゾーン別制御性	-	-	-	-	-	
	2.2 湿度制御		-	-	-	-	-	
	2.3 空調方式		-	-	-	-	-	
3	光・視環境			-	-	-	-	-
	3.1 屋光利用		-	-	-	-	-	
	1	屋光率	-	-	-	-	-	
	2	方位別開口	-	-	-	-	-	
	3	屋光利用設備	-	-	-	-	-	
	3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	
	1	屋光制御	-	-	-	-	-	
	3.3 照度		-	-	-	-	-	
	3.4 照明制御		-	-	-	-	-	
4	空気質環境			-	-	-	-	-
	4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	
	1	化学汚染物質	-	-	-	-	-	
	4.2 換気		-	-	-	-	-	
	1	換気量	-	-	-	-	-	
	2	自然換気性能	-	-	-	-	-	
	3	取り入れ外気への配慮	-	-	-	-	-	
	4.3 運用管理		-	-	-	-	-	
	1	CO <sub>2</sub> の監視	-	-	-	-	-	
	2	喫煙の制御	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.6
1	機能性			-	-	-	-	-
	1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-	
	1	広さ・収納性	-	-	-	-	-	
	2	高度情報通信設備対応	-	-	-	-	-	
	3	バリアフリー計画	-	-	-	-	-	
	1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	
	1	広さ感・景観	-	-	-	-	-	
	2	リフレッシュスペース	-	-	-	-	-	
	3	内装計画	-	-	-	-	-	
	1.3 維持管理		-	-	-	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	
	2	維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	
2	耐用性・信頼性			2.9	0.50	-	-	2.9
	2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-	
	2.2 部品・部材の耐用年数			3.2	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上材の補修必要間隔	外壁仕上材: ALC t=100→50年	5.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上材の更新必要間隔	-	1.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 信頼性			2.6	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	-	2.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	-	3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	-	2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			4.3	0.50	-	-	4.3
	3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
		1 階高のゆとり	階高:3.9m以上。	5.0	0.60	-	-	
		2 空間の形状・自由さ	[壁長さ比率=0.08] <0.1	5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり	床荷重: 14700N/㎡	5.0	0.30	-	-		
	3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-		
	2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-		
	3 電気配線の更新性	ケーブルラックにより構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-		
	4 通信配線の更新性	ケーブルラック、配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-		
	5 設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-		
	6 バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.57	-	-	3.2	
1 生物環境の保全と創出	—	3.0	0.30	-	-	3.0		
2 まちなみ・景観への配慮	植栽により、良好な景観を形成している。	4.0	0.40	-	-	4.0		
3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5		
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	—	2.0	0.50	-	-		
	3.2 敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.4	
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	3.4	
1 建物外皮の熱負荷抑制	—	-	-	-	-	-		
2 自然エネルギー利用	—	3.0	0.13	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化	BEIm = 0.47	4.1	0.63	-	-	4.1		
	集合住宅以外の評価		4.1	1.00	-	-		
	集合住宅の評価			-	-	-		
4 効率的運用		2.0	0.25	-	-	2.0		
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00	-	-		
	4.1 モニタリング	—	3.0	0.50	-	-		
	4.2 運用管理体制	—	1.0	0.50	-	-		
	集合住宅の評価			-	-	-		
	4.1 モニタリング	—		-	-	-		
	4.2 運用管理体制	—		-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	3.4	
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4		
	1.1 節水	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	4.0	0.40	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-		
	1 雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-		
	2 雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減		3.3	0.60	-	-	3.3		
	2.1 材料使用量の削減	—	2.0	0.11	-	-		
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.22	-	-		
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.22	-	-		
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床: タイルカーペット, 断熱材	4.0	0.22	-	-		
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	—	-	-	-	-		
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGSを使用している。	4.0	0.22	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.20	-	-	3.6		
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別が1つ以上～3つ以下ある。	4.0	0.30	-	-		
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-		
	1 消火剤	—	-	-	-	-		
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を使用している。	4.0	0.50	-	-		
	3 冷媒	—	3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.4	
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率76%。	3.9	0.33	-	-	3.9	
2 地域環境への配慮		3.3	0.33	-	-	3.3		
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-		
	2.2 温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-		
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.2	0.25	-	-		
	1 雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-		
	2 汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-		
	3 交通負荷抑制	—	2.0	0.25	-	-		
	4 廃棄物処理負荷抑制	—	1.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2		
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-		
	1 騒音	—	3.0	1.00	-	-		
	2 振動	—	-	-	-	-		
	3 悪臭	—	-	-	-	-		
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-		
	1 風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-		
	2 砂塵の抑制	—		-	-	-		
	3 日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-		
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-		
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす。また、広告物照明は行っていない。	5.0	0.70	-	-		
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-		

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追補版

鶴ヶ島市高倉プロジェクト

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.4.1 空調・換気設備	－		○	－	－	－	－								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	－	－	－	－	－	－						
2.4.3 電気設備	1.0	－	－	－	－	○	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		－	－	○	－	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0		－	－	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	－	－		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	－	－	1.0	－							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		－	－	－	－	－	1.0	－	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		－	1.0	－	2.0	－	－	1.0	－	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	－		－	－	－										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	－	－	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	－	－	3.0	2.0	－	1.0	1.0	－	－			
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		－	－	－	1.0	－	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	－		－	－	－	－	－	－	－						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能															
3.1.1 昼光率															
4.2.2 自然換気性能															
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性															
1.1.2 高度情報通信設備対応															
1.2.1 広さ感・景観															
1.2.2 リフレッシュスペース															
2.2.1 躯体材料の耐用年数															
2.2.2 外壁仕上り材の補修必要間隔															
2.2.3 主要内装仕上り材の更新必要間隔															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔															
3.1.1 階高のゆとり															
3.1.2 空間の形状・自由さ															
3.2 荷重のゆとり															
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出															
3.2 敷地内温熱環境の向上															
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制															
2 自然エネルギー利用															
3 設備システムの高効率化															
非住宅部分															
集合住宅の評価															
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用															
2.5 持続可能な森林から産出された木材															
3.2.1 消火剤															
3.2.2 発泡剤(断熱材等)															
3.2.3 冷媒															
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善															